

阿蘇市をバイオマスタウンに！

「資源大国 阿蘇」のバイオマス（再生可能な生物由来の資源）を有効活用するためのビジョン（将来像）を検討する「阿蘇市バイオマスタウン構想策定委員会」の初会合が、11月14日に阿蘇市役所で開催されました。

バイオマスタウンとは、地域のバイオマスを地域の創意工夫で活用して、持続可能性の高い循環型社会を形成し、地球温暖化防止への貢献や地域振興に活かしているまちのことで、現在、農林水産省が中心となり平成22年度までに300の自治体を目標に策定を促しています。

委員会は、バイオマス関連団体、学識経験者、地域の代表者、行政関係者12名で構成し、委員長に東海大学農学部柘田教授が就任しました。

この構想を策定することで、バイオマスを活用した事業を実施する際には、民間事業者であっても様々な国の制度が受けやすくなり、バイオマスタウン実現が加速されます。

バイオマスエネルギー地域システム化実験事業情報交換フォーラム2008 in 阿蘇 開催

阿蘇市と同様に、バイオマス実験事業に取り組んでいる7つの事業体（自治体、施設組合、企業）が実験事業に関する情報を交換するフォーラムが、

11月18〜19日、開催されました。主催は事業委託元の独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（通称NEDO）で、全国から57人の参加がありました。

情報交換フォーラムでは、阿蘇市の草本系バイオマスを活用した事業の採草現場やガス化発電設備の見学後に、事業進捗状況報告やポスターセッション、パネルディスカッションが行われ、活発な議論が繰り広げられました。

利用するバイオマスの種類は「木」、「草」、「生ゴミ」と違うものの共通する課題は多いため、各事業者の成果を基に課題解決のためのヒントが得られたほか、7事業のネットワーク形成により事業の更なる推進が期待されます。

バイオマス事業の採草作業が開始！

実験4年目となる「草本系バイオマスのエネルギー活用システム実験事業」の採草作業が開始されました。作業には、若手農家で作るバイオマスオペレーター組合（北里孝博組合長）のメンバー17名があたり、天候を確認しながら3月の野焼きまで行います。

昨年は151haの未利用草地から約800t収集してガス化発電設備で利用しています。阿蘇の草原を守る彼らの頑張りに応援をお願いします。

大浴場の温泉につかって「健康はつらつ講座」



市では、地元の温泉旅館・ホテル等を使った高齢者の介護予防講座を開始しました。これは、健康づくりを「たまにはおでかけ気分です！」というもので、温泉旅館・ホテル等の活性と健康づくりを兼ねた温泉街ならではの斬新な取り組みです。

今年度は阿蘇プラザホテルを会場とし、午前中は健康づくり教室、午後はホテルで昼食、温泉入浴するメニューで実施しました。初回となった11月4日は37人が参加し、「ホテルなどで温泉入浴や食事をする機会が少ないので今日はとても嬉しいです」と大変喜ばれました。詳しくは、高齢者支援課 ☎22-3145

消防に貢献 白石 元興氏 瑞宝単光章(叙勲)



白石元興氏（66歳、手野）は、昭和39年9月に一の宮町消防団に入団。その後33年間従事し、昭和59年に分団長、昭和62年に副団長に、平成7年には団長に就任されました。また、一の宮町議会議員・市議会議員を務めるなど、一の宮町の産業経済の発展はもとより、平成9年に消防団を退職されるまで、30有余年の永きにわたり、終始一貫消防業務に誠実かつ忠実に貢献されました。